

吉江忠男

バリトン Tadao Yoshie - Baritone

阪田知樹

Tomoki Sakata - Piano

ピアノ

シューベルト《白鳥の歌》

D957/D965a

リーダーアーベント

Franz Schubert "Schwanengesang" *Liederabend*

継

受け継がれる

ドイツ正統派演奏の真髄

承

©HIDEKI NAMAI

長野公演
2022年

8月3日 水

19:00 開演
(18:20 開場)

長野市芸術館 リサイタルホール

(長野市大字鶴賀緑町 1613 番地)

※駐車場(有料)に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

入場料：5,000 円 (全席自由・税込・未就学児入場不可)

【チケット購入方法】

■ チケットぴあ [Pコード 216887]

■ e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

■ プレイガイド

● 長野市芸術館チケットセンター (窓口のみ)

● 笠原書店 (岡谷)

【ご予約・お問い合わせ】

オフィス・マユ [Tel.] 026-226-1001 (平日 9:30~18:00)

山梨公演
2022年

8月5日 金

19:00 開演
(18:20 開場)

キングスウェルホール

(山梨県甲斐市下今井 2446)

入場料：5,000 円 (全席自由・税込・未就学児入場不可)

【チケット購入方法】

■ チケットぴあ [Pコード 216888]

■ e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

■ プレイガイド

● キングスウェルホール

【ご予約・お問い合わせ】

合同会社ナール音楽企画

[E-mail] info@naable.com

[Tel.] 055-288-9177

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いいたします。

【主催】合同会社ナール音楽企画 Naable Music Planning

【協賛】株式会社緑風舎

ドイツ歌曲に「21世紀の命」を注ぐ

永遠の名歌手、吉江忠男と阪田知樹の邂逅

1941年(昭和16年)生まれのバリトン歌手、吉江忠男がリスト、エリザベート王妃など様々な国際コンクールを通じて頭角を現した若きヴィルトゥオーゾ(名手)の阪田知樹(1993年生まれ)と出会い、リート(ドイツ語歌曲)デュオに挑む。これまでイェルク・デームス、小林道夫、深沢亮子などとリートの世界を究めてきた。その名歌手が81歳を超え、新たなパートナーと邂逅した。

長野県岡谷市出身の吉江は東京藝術大学音楽学部と同大学院を出た後、ドイツ学術交流会(DAAD)の奨学金を得てドイツのデトモルト音楽大学へ留学。フランクフルト歌劇場のオーディションに合格し、1975年から12シーズン、クリストフ・フォン・ドホナーニからミヒャエル・ギーレンへと、2代の音楽総監督(GMD)の下で第1専属バリトン歌手を務めた。オーケストラ演奏会や宗教曲の独唱者としても活躍し、名指揮者セルジュ・チェリビダッケの宗教音楽講座の模範歌唱、指揮者で作曲家のハンス・ツェンダーが書いた「無字の経」初演などにも招かれた。

日本人離れした長身、堂々とした体格はもちろん、バリトノ・カヴァリエーリ(騎士の品格に富む柔らかなバリトン)の傑出した美声は間違いなく、世界水準に達していた。東京藝大で吉江の先輩に当たる元名誉教授で元二期会理事長のメゾソプラノ、戸田敏子(1922-2015)の隣席でたまたま、吉江が出演した舞台を観たことがある。戸田が「吉江君は学生時代から、とびきりの美声だったのよ。今も変わらず素晴らしく、私はこの声、好きだわ」と私に話しかけ、うっとり

聴き惚れていたのも懐かしい思い出だ。

平成のディーヴァ、佐藤しのぶ(1958-2019)は二期会創立者の1人、中山悌一を偲ぶ会で吉江が歌うシューベルトの《即興曲(作品90の3)》(デームスが自作詞をつけた)を聴いて驚いたという。そして、亡くなる寸前までレッスンに通い、共演を重ねた。本来は佐藤とのジョイントで行うはずだった「80歳記念リサイタル」(2020年11月21日、サントリーホール・ブルーローズ)は佐藤の死により吉江単独となり、小林道夫とのデュオで休憩を除いた正味2時間、シューベルトのリートを朗々と歌い続けた。

阪田はリストを弾き終え、「10本の指がほとんど人間離れした動きをしていて、自分でも信じられませんでした」と漏らすほどの超絶技巧の持ち主だが、ピアノ以外も含めた古今の名演奏を聴きあさり、リートやオペラにも一家言を持つ「マニア」でもある。ウィーンでデームスの友人、好敵手のパウル・パドゥラ=スコダに師事、留学先だったハノーファーを現在も本拠とするなど、ドイツとの縁は吉江と同じく深い。ドイツ語と音楽が分かち難く結びつき、深く大きな円弧を描くシューベルトのリート宇宙(コスモス)で吉江と阪田がどのような化学反応(ケミストリー)を起こすのか、興味は尽きない。

池田卓夫

音楽ジャーナリスト@いけたく本舗®
<https://www.iketakuhonpo.com/>

BIOGRAPHY



吉江忠男 バリトン Tadao Yoshie - Baritone

長野県岡谷市生まれ。東京藝術大学声楽科卒業。二期会新人賞、外国人評論家クラブ「M.B.C.A.J賞」受賞。同大学院修了後1969年旧西ドイツ政府の給費留学生(DAAD)としてデトモルト北西ドイツ音楽大学へ留学。名門フランクフルト市立歌劇場音楽総監督ドホナーニに認められ、1975年より12年間専属ソロバリトン歌手として活躍。ハンス・ホッター、パヴァロッティ、カレラス、クラウス、パンブリーなど錚々たる歌手たちと共演。またヨーロッパ各地で、オーケストラ演奏会や宗教曲の独唱者、音楽祭へ招聘されるなど幅広い分野で活躍。日本では二期会オペラ公演「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「ドン・ジョバンニ」タイトルロール等を演じる。1987年ドイツより帰国。ドイツ歌曲の世界により近い故郷信州を最終活動拠点とし、一意専心歌の奥義を探究。古希を迎え共演した巨匠イェルク・デームスと音楽的共感から深い信頼関係が生まれる。2008年デームスの招聘によりザルツブルク・ミラベル宮殿にてリサイタル共演、2020年サントリーホールにて小林道夫とリサイタル共演、2021年に続き2022年5月ハクジュホールにてフォルテピアニスト平井千絵とリサイタル共演等、精力的に歌い続けている。



©HIDEKI NAMAI

阪田知樹 ピアノ Tomoki Sakata - Piano

2016年フランチ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクールピアノ部門第4位入賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて覇冠19歳で最年少入賞。ビティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリエヴァンド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンジャー国際ピアノオリンピックではベートーヴェンの演奏を評価され、日本人初となる第1位及び聴衆賞。国内はもとより、世界各地20カ国で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。クレムリン音楽祭では、オール・リスト・プログラムによるリサイタルをニコライ・ペトロフ氏が「世界一のリスト」と絶賛。2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、及び同大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学にて学士、修士首席修了。現在同大学院ソリスト課程に在籍。世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められて以来、イタリアでも研鑽を積む。パウル・パドゥラ=スコダ氏に10年に亘り師事。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。



緑風舎

ハケ岳南麓で花作りを通じて心豊かな生活と
職場環境の創造を目指しています

本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1
長坂農場 〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 994-5
大泉農場 〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出 4640